

11トルメーほどですが、長さが2キロもある長い沼です。さらに2キロほど進むと崖があり、4キロほどで幅11トルメーほどの樺戸川に出ました。この川も樺戸山から来る流れということです。ここで野宿をしましたが、随分と暖かな土地でした。

2月24日

夜明けに出発し、北東を目指します。2キロほどでチカフセトシ、そこから6キロ余りで小川のトレフウシナイ、ウラシベツがありました。ここで、これまでの探査に同行してくれたこの地域のアイヌの長であるセツカウシに出会ったので、ここから先は彼と一緒に行つてもらうことに



徳富川

新十津川町の中央を流れる川。釣り場としても親しまれる。

しました。それから2キロほど進むと、源が暑寒別岳にあるという、川幅およそ40トルメーの徳富川に出会いました。この場所を渡るのに、所々割れた川の氷の上に木の枝を渡しながら、川向こうへとたどり着きました。そこからさらに1.4キロほど原野を歩き、セツカウシの家に着き、今夜はここに泊まることにしました。翌日も一日中激しい吹雪のため、ここに留まりました。

2月26日

曇り。暖かくなり、雪解け水で川の水かさが増し、畳10枚、20枚分もあるうかという大きさの氷の板が、次から次へと流れて来ます。その川を向こう岸まで渡り、4キロほどの平原、そしてラウネナイ、ホンチボヤウシという小川を過ぎ、そこからさらに3キロほどでホロチボヤウシ川があり、この辺りから4キロほどは樺や柏の林が続きます。ウリルンという長い沼を越え、8キロほど北北東へ進みました。ユウベヲツという小川があり、その先4キロほどでシユマウナイという小川、また、